

報告書：新島襄研究会第 4 回勉強会

【日 時】令和 4 年 11 月 10 日 (木) 18:30~20:00

【場 所】ウイंकあいち (愛知県産業労働センター)

名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38

【参加者】大島、石田、加藤、正木、伊藤、榎木、下澤、鈴木、後呂 (敬称略)

【概 要】

- ・課題文献「同志社大学設立の旨意」の感想を事前に共有。
感想について個々に説明を行いそれに基づいて議論を深めた

◆意見交換例

「現代においてキリスト教に基づく教育を行う意義はどこにあるのか」

- 神の存在を信じることにより自分を客観的に見ることができるようになり、それに基づいて日々の自分の生活を鑑みることができるようになるのではないかと。
- 自分は先人の知恵のようなものとして理解をしている。宗教というよりは一つの価値観を示すもの。
- 物事を判断する一つの指標を示してくれる。
- 「一国の良心」ともなるべき人材を育成したい、というのが新島先生の教育の主たる目的であり、必ずしもキリスト教を普及するための手段として教育があるということではない。
- 「儒教的なものの考え方との関係は？」
- 「良心」「秩序」というものを新島先生は強調されているが、これらの言葉にはキリスト教的というよりは儒教的な考えが潜んでいるのではないかと。
- 武家の出であるということでもやはり儒教的なものの考え方も新島先生にはあったのではないかと。
- キリスト教的なものの考え方と儒教的なものの考え方のバランスをうまくとっている。

【今後の進め方】

座学と共に新島襄のお墓参り等も企画していきたい。

【次回について】

- ・課題 「新島襄の手紙」(岩波書店)を読み、事前に所感を共有する。
- ・日程 1月20日(金) 18:30 ウイंकあいち



大学 HP 掲載

「同志社大学設立の旨意」

以上

報告書作成：正木 桂